

平成15年度(2003年度)の温室効果ガス排出量について

千葉市地球温暖化対策地域推進計画では、進行管理として排出量を把握することとしている。そこで、各種統計データが整備されている最新時点(平成15年度)を対象に調査を実施した。

1 温室効果ガス排出量算出結果

平成15年度(2003年度)の総排出量は、18,577千tCO₂であり、現況年度(2000年度)に比べ3.9%増加した。

(千トン-CO₂)

部 門	現況年度 (2000年度)	2003年度(平成15年度)		原発が通常稼働の 時の予測推移 (対2000増加率)	目標年度 (2010年度)の 排出量 (対2000増減率)
		排出量	対2000増加量 (率)		
産業部門	13,127	13,308	181 (1.4%)	13,238(0.8%)	12,395(-5.6%)
業務部門	939	1,184	245 (26.1%)	990(5.4%)	931(-0.9%)
家庭部門	968	1,181	212 (21.9%)	1,000(3.3%)	715(-26.1%)
運輸部門	2,379	2,375	-3 (-0.1%)	2,358(-0.9%)	2,203(-7.4%)
その他(代替フロン等3ガスを含む)	475	528	53 (11.2%)	528(11.2%)	552(16.0%)
総排出量	17,888	18,577	689 (3.9%)	18,114(1.3%)	16,796(-6.1%)

注)「代替フロン等3ガス」については、1995年度を基準年度としている。

注)産業・業務・家庭部門については、代替フロン等3ガスを除く

注)総排出量は、端数処理をしている。

2 温室効果ガス排出量の増加の要因

各部門の排出量増加の要因については、以下の通りである。

(1) 産業部門

- ・鉄鋼業の生産量の増加
- ・その他業種の出荷額の増加及び原子力発電所の停止による排出原単位の増加

(2) 業務部門

- ・原発停止による電力使用の排出原単位の増加(27.8%増)
- ・ビル等の床面積の増加による都市ガス使用量の増加(24.0%増)

(3) 家庭部門

- ・原発停止による電力使用の排出原単位の増加(27.8%増)
- ・世帯数の増加(7.6%増)

なお、算出根拠データについては次ページを参照。

3 その他

(森林による温室効果ガスの吸収量)

森林吸収量は、18千トン-CO₂であり、市内の二酸化炭素総排出量18,577千トン-CO₂の約0.1%程度となっている。

参考 2003年度温室効果ガス排出量算出根拠データ

	単位	1990 年度	2000 年度	2003 年度	2000 年度からの増加率
人口の伸び	(千人)	829	887	912	2.8%
世帯数の伸び	(千世帯)	279	345	371	7.6%
合計床面積の伸び	(千m ²)	6,918	11,412	11,982	5.0%
電力消費量	(GWh)	3,423	4,049	4,046	-0.1%
電力消費量 (家庭+業務)	(GWh)	2,176	2,793	2,696	-3.6%
電力の係数の変化	(kgCO ₂ / kWh)	0.42	0.36	0.46	27.8%
家庭一人当たりの 温室効果ガス排出量 (原発通常時想定)	(トンCO ₂ /人)	0.90	1.09	1.10	0.4%
家庭一世帯当たりの 温室効果ガス排出量 (原発通常時想定)	(トンCO ₂ /世帯)	2.69	2.80	2.69	-3.9%
単位床面積当たりの 温室効果ガス排出量 (原発通常時想定)	(トンCO ₂ /千m ²)	85.2	82.3	82.6	0.4%
都市ガス使用量	(百万m ³)	31.5	73.4	91	24.0%